

建築種別 結果データ

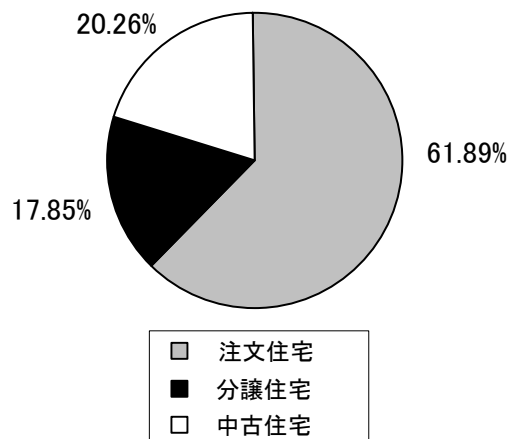
(平成18年4月1日～平成18年11月30日/木耐協調べ)

平成18年4月1日から平成18年11月30日まで（8ヶ月）に、木耐協で実施した耐震診断2,364件の耐震診断結果を、建築種別（注文住宅・分譲住宅）ごとに分析したものです。

■ 耐震診断を実施した建物の購入種別

(平成18年4月1日～平成18年11月30日)

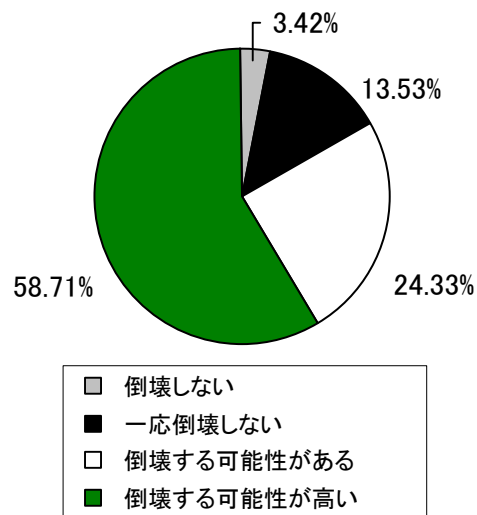
注文住宅	1,463	61.89%
分譲住宅	422	17.85%
中古住宅	479	20.26%
合計	2,364	



■ 注文住宅

(平成18年4月1日～平成18年11月30日)

倒壊しない	50	3.42%
一応倒壊しない	198	13.53%
倒壊する可能性がある	356	24.33%
倒壊する可能性が高い	859	58.71%
合計	1,463	



◆昭和56年5月以前の注文住宅

倒壊しない	1	0.19%
一応倒壊しない	24	4.55%
倒壊する可能性がある	106	20.11%
倒壊する可能性が高い	396	75.14%
合計	527	

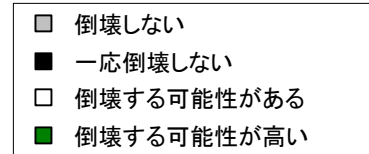
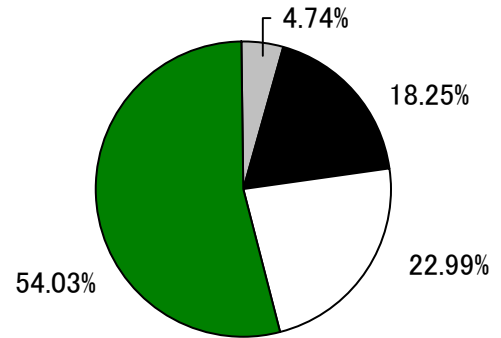
◆昭和56年6月以降の注文住宅

倒壊しない	49	5.24%
一応倒壊しない	174	18.59%
倒壊する可能性がある	250	26.71%
倒壊する可能性が高い	463	49.47%
合計	936	

■ 分譲住宅

(平成18年4月1日～平成18年11月30日)

倒壊しない	20	4.74%
一応倒壊しない	77	18.25%
倒壊する可能性がある	97	22.99%
倒壊する可能性が高い	228	54.03%
合計	422	



◆昭和56年5月以前の分譲住宅

倒壊しない	0	0.00%
一応倒壊しない	4	3.36%
倒壊する可能性がある	26	21.85%
倒壊する可能性が高い	89	74.79%
合計	119	

◆昭和56年6月以降の分譲住宅

倒壊しない	20	6.60%
一応倒壊しない	73	24.09%
倒壊する可能性がある	71	23.43%
倒壊する可能性が高い	139	45.87%
合計	303	

■分譲住宅よりも注文住宅の耐震性に不安有り

建築種別で耐震性をみると、総合評点が1.0を下回る「注文住宅」は83.04%と8割を超え、「分譲住宅」の77.02%に比べて約6ポイント上回ることがわかります。
注文住宅においては「大きな窓を作りたい」「広いリビングを設けたい」などの施主の要望が間取りに反映されてきたことが、耐震性を下げる要因のひとつになっていると考えられます。

■昭和56年6月以降の住宅において、注文・分譲の耐震性の差が明確に！

昭和56年5月以前に建てられた住宅において、総合評点が1.0を下回る住宅は注文住宅で95.25%、分譲住宅で96.64%とその差はわずか1.39ポイントしか見られません。
しかし、昭和56年6月以降の住宅でみると、総合評点1.0未満の住宅が注文住宅で76.18%、分譲住宅で69.30%となり、その差が開く事がわかります。